

## 実習を通じて得た診療で大事なこと

1ヶ月間、小出病院で総合診療学の臨床実習をさせていただきました。問診や診察の基本を学び、多くの症例に触れる機会を得ました。複数の鑑別疾患を挙げ、それらをどのように鑑別し、どのような身体所見を意識しながら診察を行うべきかなど、診療における重要な視点を学びました。また、初診の患者さんを担当する機会をいただき、自ら問診や診察を行いながら診断の過程を考える経験を積むことができました。さらに、現在行われている治療が適切であるかを常に確認すること、入院時には内服薬を適切に見直す必要があることを学びました。加えて、患者さんと密に接し、その人に寄り添った対応を考えることの大切さも実感しました。特に、地域医療の現場では、治療が終了しても退院できない社会的背景や、身寄りのない患者さんへの対応など、「疾患だけでなく、その人を診る」という視点の重要性を強く感じました。

今回の経験を今後に活かし、より良い医師を目指して努力してまいります。ご指導いただいた先生方や病院関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。